⑲上野の山文化ゾーンフェスティバル

江戸伝統芸能

吉例第二十回

上野石忍華舞台（うえのものばずはなぶたい）

《総合司会》
元ニッポン放送アナウンサー
梶　幹雄

ニッポン放送時代から歯切れの良い格調あるしゃべりに定評があり、浅草の芸能大賞の司会などでも活躍しています。

一、長唄『鞠猿（うつばざる）』

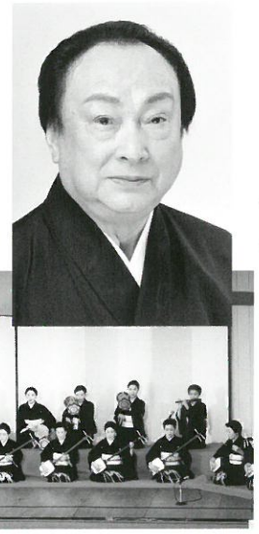
特別出演　人間国宝
東音宮田　哲男
東音金子　君子　他
長唄女子東音会
鳴物望月　左太郎社中

この舞台で、いつも好評の長唄女子東音会。今回の演目は長唄「鞠猿」です。

■あらすじ

のどかな春の日、土手で出逢った猿引きに「鞠にしたいから」と大名が所望する。猿引きはことわりきれずに仕方なく鞠を持って猿に向かう。

猿は無邪気にその鞠を持って舟を漕ぐ真似の芸を始める。猿引きはたまらず泣きくずれる。さすがの大名も「打つなと言え」と大声をあげる。



宮田　哲男

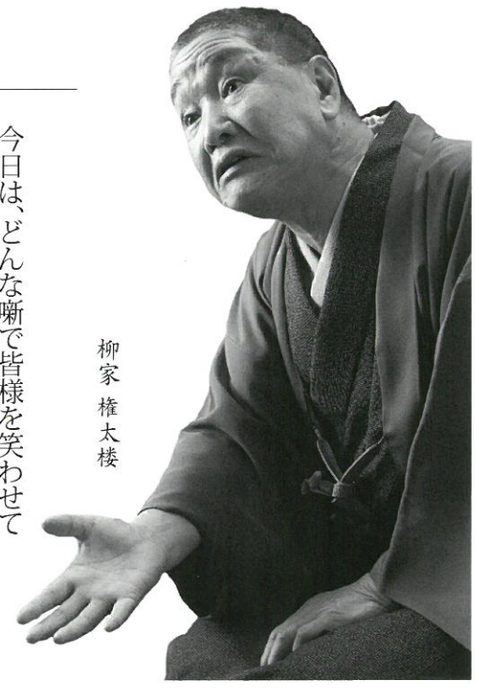
長唄女子東音会

長唄の第一人者で人間国宝でもある宮田哲男と、女子東音会の皆さんの演奏を十分にお楽しみ下さい。

二、落語『お楽しみ』

柳家　権太楼

さあ、いよいよ落語界の爆笑王・柳家権太楼師匠の登場です。



柳家　権太楼

今日は、どんな噺で皆様を笑わせてくれるでしょうか、お楽しみに……

昭和45年　故柳家つばめ入門、49年師匠他界のため柳家小さん門下となる
昭和53年　NHK新人落語コンクール優秀賞受賞
昭和55年　54年度日本演芸大賞ホープ賞受賞
昭和57年　真打昇進、柳家権太楼襲名
昭和62年　61年度若手演芸大賞・大賞受賞
平成14年　浅草芸能大賞・奨励賞受賞
平成24年　23年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞
平成25年　24年度板橋区区民文化栄誉賞受賞
平成25年　紫綬褒章受章

三、江戸里神楽『江戸囃子・寿獅子』

国指定
重要無形
民俗文化財

若山胤雄社中

若山胤雄社中

若山社中は、江戸里神楽を継承する神楽師の家で、明治の末までは「神楽師」の家でしたが大正期に初代清胤氏が下町の祭礼囃子を修得して以来、「神楽」と「囃子」を併せ持つ専門職となり、四世胤雄氏が社中を結成しました。

現在は江戸の里神楽の芸格を継承し、尚一層の発展に努めており、重要無形文化財に指定されています。

■江戸囃子

江戸囃子は江戸の庶民の中で生まれ育まれてきた音楽です。演奏を聴いて頂ければ祭礼の情景が目のあたりに思い浮かべていただけると思います。

■寿獅子

江戸時代より続く若山流の、五月晴れの空の様な爽やかな芸風の江戸前の獅子です。現在では、主に御祝の席で演じられております。

四、舞踊　素踊り『連獅子』

親獅子の精　中村　芝翫
仔獅子の精　中村　橋之助

河竹黙阿弥作の、歌舞伎及び日本舞踊の代表的な演目のひとつ。親子の厳しさと愛情を、中村芝翫・橋之助親子が踊ります。今回は成駒屋に代々伝わる中村流の振付で、衣装や化粧などをしない素踊りを披露。歌舞伎の名門に伝わる技をご堪能ください。

中村　橋之助

中村　芝翫

・中村芝翫のプロフィール

昭和40年8月31日生まれ。七代目中村芝翫の次男。
昭和45年5月国立劇場「柳影澤蛍火」吉松君で中村幸二の名で初舞台。
昭和55年4月歌舞伎座「沓手鳥孤城落月」裸武者銀八ほかで三代目中村橋之助を襲名。
平成28年10、11月歌舞伎座「熊谷陣屋」の熊谷直実ほかで八代目中村芝翫を襲名。

・中村橋之助のプロフィール

平成7年12月26日生まれ、八代目中村芝翫の長男。
平成12年、9月歌舞伎座で初代中村国生を名乗り初舞台。
平成28年10、11月歌舞伎座「熊谷陣屋」の堤軍次ほかで四代目中村橋之助を襲名。